

平成28年度事業報告

<総括>

平成28年度は、平成23年11月に策定した「長期ビジョン～10年後のありたい姿～」の第二サイクル（平成27年度～29年度）の二年目であり、第二サイクル初年度（平成27年度）と同様に、事業運営の要である「人づくり」をはじめとして、種々の取り組みを進めてまいりました。

主に施設内での研修を企画・開催すると共に、外部の研修にも積極的に参加し、知識・技術の向上に努めました。施設内では外部講師を招聘するだけでなく、施設内の委員会主導でテーマを絞った勉強会を開催し、その中で受講者が相互に意見交換をする等しながら、技術向上等を図ってまいりました。

勉強会での課題は、職員が日頃のサービス提供時に気づいたり、感じたりしていることから、同じ目線で考えることができ、有意義なものになりました。

一方で、介護に携わる人材不足が深刻化する社会情勢の中、当法人においても人材の確保に苦労した1年となりました。

地域との共生面では、平成27年度から芦屋市より受託しました「生活支援体制整備事業（地域支えあい推進）」も、芦屋市内の他の生活支援コーディネーター（地域支えあい推進員）と共に、課題整理や情報収集等を図りながら、一歩ずつ進めてまいりました。今後も連携を図りながら、進めていく予定です。

一昨年11月より開催しています「オレンジカフェフォーラムおしゃべり会」も、序々に地域に認知されるようになり、地域住民や行政の方々も含む関係者等、多くの参加者を得ております。

更には、平成28年8月に兵庫県より、地域見守り事業等を実施することにより地域への貢献を行う「地域サポート型施設」としての認定を受け、活動を開始いたしました。この取り組みは、在宅生活の高齢者を支援するため、24時間体制の見守り訪問、相談業務等を行うものです。現在未だ登録者はいませんが、地域の方に知っていただくべく情報発信に努めております。

収入面においては、各施設・事業所毎に年度目標を設定し、取り組んでまいりました。その結果、収入では854百万円（対前年比較7百万円増）の収入

をあげることができました。

一方、支出では813百万円（対前年比較1百万円増）となりました。主な要因は、人件費増であり、特に派遣職員費用が大きく、介護人材不足の影響を受け、職員の確保が困難であったことによるものであります。

以上の結果、資金収支差額では、42百万円の収益を確保することができました。

I 【職員が、「エルホーム芦屋に勤めて良かった」と言える事業団】

I. 人（職員）づくり

本年度初めに全職員に対し「平成28年度事業計画」を配布し、各施設・事業所長よりミーティング等を通じて周知・徹底を図りました。給食委託会社等とも計画を共有し、エルホーム全体で事業活動の推進に取り組みました。

職員の知識や技術向上を図るべく、施設内の各委員会が中心となり、日頃のサービス提供をもとにテーマを考え、勉強会を企画しました。

特別養護老人ホームでは、感染症対策委員会による「感染症・食中毒研修」、入浴機器の取扱いでのヒヤリハットをもとにリスクマネジメント委員会による「入浴機器リスク研修」、「抱えない介護を目指す実技勉強会」、老人保健施設では、事故防止委員会が、ご入居者への安全強化や職員の腰痛予防にも繋がる「トランスファーボードによる移乗方法・正しい使い方」や行事レク委員会による「毎日のレクで利用者さんの意欲を引き出す」、身体拘束廃止委員会による「高齢者擬似体験」等の研修・勉強会を実施いたしました。

職員が講師となることで「よく理解できた」、「とても分かりやすかった」、また高齢者疑似体験では、「改めてご入居者さまの日頃の身体的な状態がわかり、介助のポイントも理解できた」等の感想であり、学んだ点を日常のケアに生かすようにしています。また、外部講師を招聘した研修も企画・開催しました。臨床宗教師の資格を持つ僧侶をお呼びし「臨床宗教師の視点から見るターミナルケア」、女子大学教授による「懐かしい記憶に働きかける「回想法」により、人の心について学びました。

施設外への研修も管理者や職種別、経験年数により、兵庫県社会福祉協議会、芦屋市権利擁護支援センター等が主催する認知症に関する研修や対人援助技術

に関する研修、急変時対応への研修等に参加し、専門知識・技術の向上に努めました。(延べ108名)

阪神ブロック内の社会福祉施設で構成する「介護部会」や「看護部会」、「支援相談員部会」等の交流勉強会にも参加し、知識向上だけでなく相互の情報交換や人脈づくり、ネットワークづくりを図り、当所の介護サービスを見つめ直す良い機会にもなりました。

毎年、10月に開催し本年で第8回となる「業務改善活動実践発表会」では、外部講師(2名)にも出席していただき、各施設・事業所が、日頃の業務への取り組みと改善事例を発表しました。全9チームがエントリーし、それぞれが発表の後、講師から講評やアドバイスをいただきました。本年度は老人保健施設の「老健から施設内へ水平展開！パソコン内のデータを安全に保管しよう！」が、最優秀賞に選ばれました。

また、実習生の受け入れも多数行いました。関西保育福祉専門学校や大原医療福祉製菓専門学校(介護福祉士科)、神戸常盤大学(口腔保健学科)等、11校35名(延べ250人日)を受け入れ、各種養成学校や地域の学校と緊密な関係を構築するだけでなく、実習生に「教える」立場となった職員のレベルアップにも繋がっています。

一方、職員が悩みを一人で抱え込まないよう、各施設・事業所の所属長等が日常より声をかけたり、定期的な面談(キャリアアップ、キャリアデザイン面談等)時にアドバイスを送ったり、サポートに心がけています。加えて、今年度より、チェックシートを用いて自己分析を行うことにより、ストレスの度合いが分かる「ストレスチェック制度」を導入しました。

Ⅱ 【ご入居者(利用者)やご家族から、「エルホーム芦屋の職員さんにお世話になって良かった」と言ってもらえる事業団】

Ⅱ. サービス(施設、在宅)

各施設・事業所共に、春にお花見や西宮酒蔵見学等への外出、ちらし寿しやお好み焼き等の食事行事を、夏には、かき氷大会やバーベキュー大会、流しそ

うめん、スイカ割り等、秋には運動会や焼き芋大会、みたらし団子作りやハロウィン仮装大会、外出行事としてコスモス観賞や紅葉狩り、冬にはお鍋（一人鍋）や西宮神社への初詣等々、四季折々の各種行事を施設内外で企画・開催しました。ご入居者（利用者）のみならず、ご家族さまにも参加していただき、施設での生活について知っていただくと共に、職員や他のご家族さまとの交流を深めていただく良い機会とすることができました。皆さまからは、「楽しかった」「美味しかった」と大変好評でした。今後もいろいろな企画を考え、皆さまにより楽しんでいただきたいと思います。

そして、法人大のお祭りとして9月に「エルフェスタ」を開催しました。ボランティアとして地域の皆さまや福祉専門学校の学生、給食委託会社スタッフ等、約50名のご協力をいただき、ご家族や地域の方々、職員含め約350名が一同に介して、バトンクラブや大道芸、職員の講談、ケアハウスご入居者と共に大合唱などのイベントに笑ったり、手拍子したり、たこ焼きや焼そばなどを食べて、楽しい一時を過ごしました。

また、特別養護老人ホームでは、ご家族さまとの意見交換会を6月に開催し、ご家族27世帯39名が参加され、施設やフロア毎の取り組みを報告したり、ご家族さま同士の自己紹介や意見交換もあり、お互いの情報の共有も図っていただくことができました。

デイサービス（地域密着型）では、平成28年9月と平成29年3月に、ご家族代表者と地域の民生児童委員、芦屋市高齢介護課職員、地域包括支援センター職員も参加し、日頃の運営状況やサービス内容について報告する「運営推進会議」を開催しました。いずれの会議でも「参加して良かった」「安心して利用できる」等のお言葉をいただきました。

ケアハウスでは、ご入居者と懇談会を開催し、防犯対策（神奈川県で発生した事件を受けての対応）について説明し、ご理解を得ています。そして、日頃より個別にご意見や思いを聞かせていただき、いただいたご意見には出来る限りの対応をしています。

複合施設としての強みを発揮すべく情報連携を徹底し、ご利用者さまが不安なくサービスの移行ができるよう、施設間や在宅サービスと施設間等の連携を強化してまいりました。

居宅介護支援事業所から老人保健施設や特別養護老人ホームへの情報提供（5件）、ケアハウスから老人保健施設へのご入居（1件）、またケアハウスからショートステイご利用（10件）、居宅介護支援事業所から老人保健施設ショートステイ（4件）等、日頃より情報を共有しつつ、よりよいサービス提供に努め

てまいりました。

8月には、本年度で4回目となる「サービスアンケート調査」を実施し、各施設・事業所のご家族・ご入居者さま（383名）にお送りしました。192名の回答（50.1%）をいただき、多くの感謝や安心等のお褒めの言葉や様々なご意見・ご要望を伺うことができました。

お褒めの言葉では、「家族としてとても安心している」や「エルホーム芦屋のきめ細かな介護は、受けられないと思います」等々をいただきました。

サービスアンケート調査以外でも、お褒めや感謝の言葉（51件）をいただきました。例えば、ご逝去されました方のご家族さまより「エルホームで看取りができて温かい最後を迎えられたことに、感謝します（特別養護老人ホーム）」や「サービスの利用には至りませんでした、入院から在宅復帰に向け相談にのって頂き、感謝しています（居宅介護支援事業所）」等頂き、その内容は所属長から職員へ伝え、職員皆が「自信」と「やる気」、「やりがい」をもって取り組んでもらえるよう共有しています。

一方、ご意見・ご要望では、各施設・事業所に対してご入居（利用）者や家族からいただきました。（例：「居室内の埃が多い」や「忙しそうにして居るので、少々声をかけにくい」等々）

いただいたご意見は、法人内で共有すると共に順次対応しており、今後も実施しより満足していただける施設運営に努めてまいります。

10月に認知症対応型通所介護が芦屋市より、11月にケアハウス施設、デイサービス、訪問介護、居宅支援事業所、訪問リハビリの各事業所と給食業務の計6ヶ所が、芦屋健康福祉事務所より実地指導を受けました。その結果、指摘事項については改善を図り、法人大で共有しました。

法令遵守やガバナンス強化については、平成28年度に法令遵守に関する取り組みを更に具現化した「コンプライアンス活動の基本方針」を策定し、全職員に対して趣旨を徹底した上で、取り組みを進めました。

Ⅲ 【地域から、「エルホーム芦屋があって良かった」と喜んでもらえる事業団】

地域との共生

地域の一員として、相互に協力できる関係となるよう、学校や地域での行

事について把握し、できる限り参加しました。芦屋市立精道中学校や潮見中学校体育大会や卒業式への出席、出席できなかった近隣の保育所や幼稚園、小学校や高等学校へは祝電やメッセージカードを持参しました。

芦屋市主催の「第22回 ASHIYAドラゴンボートレース」にも参加（予選敗退）したり、浜町子供みこしや打出みこし巡行の観覧、浜町クリーン作戦の参加等、市民の方々との交流を図りました。

また、高齢者福祉の専門性を地域に役立てるべく、当法人でセミナーを開催したり、地域の勉強会に職員を講師として派遣しました。自治会（5月宮川自治会、6月大東町LSA）主催の「口腔ケア勉強会」に講師派遣の要請を受け職員（歯科衛生士）1名を派遣、2月にはナルク芦屋主催の介護技術講習会に講師1名を派遣し、参加者から感謝のお言葉をいただきました。

そして、新たに「生活支援型訪問サービス従事者養成研修」（総合事業に対して必要な知識および技能等修得する）の講師を派遣しています。

7月と11月には、「認知症予防セミナー」を開催し、多くの地域の方々が参加されました。（7月43名、11月34名 計77名）

認知症についての説明やタッチパネルを活用しての認知症テストを行い、予防啓発に努めました。今後も同様に、セミナーの企画・開催や地域の要望により講師派遣に取り組んでまいります。

施設での開催時には、地元自治会が発行されます会報や掲示板への掲示、各関係機関へのチラシ配布や芦屋市広報誌に掲載し、施設の行事や講習会等の情報発信に務めました。

地域の誰もが施設に立ち寄れる「大きな家」を目指し、いろいろな活動を実践しています。シルバー人材センター絵画クラブの方々による写生会の開催にあたり、施設の中庭を提供させて頂きました。また、中庭の花壇の手入れをしていただいているナルク芦屋のメンバーの方々のご協力のもと、「芦屋オープンガーデン2016（5月14日～22日）」に登録し、多々の市民の方々に観賞していただきました。

芦屋市立打出保育所（園児21名）や宮川幼稚園（園児90名）ならびに新浜保育所（園児18名）から園児に來訪して頂き、ご入居（利用）者の皆さまと歌を唄ったり、簡単な手遊びをしたりと交流を深め、楽しまれていました。未就園児（幼児サークル）の子供たちとご入居者の方と一緒に、さつま芋の苗植を行い、喜ばれていました。

そして、1階地域交流スペースや喫茶室を活動の拠点として、憩いの場として、幅広く地域の方々にご利用いただいています。

また、毎年8月に近隣地区の小学生を対象に開催しています「小学生高齢者施設体験実習」では、浜町地区より6名が参加し、施設生活の把握や、ご入居者とのふれあい交流を行い、そして、今年で2回目となる芦屋市民生児童委員協議会と芦屋市地域福祉課主催の市内3中学校対象合同「夏休み福祉ボランティア」が8月に開催され、16名の中学生を受け入れました。午前中の短い時間でしたが、施設内の見学とご入居（利用）者の方々との交流を深めて頂きました。

また、「トライやるウィーク」では潮見中学校より2名（2年生）の中学生を受入れ、11月に芦屋市立精道中学校福祉体験学習の一環として、40名（2年生）を受け入れ、ふれあい交流等を図りました。

今年度も夏休みを利用し、「小学生高齢者施設体験実習」を開催し、浜町の子供たち6名の小学生が体験しました。最初は緊張で顔もこわばっていましたが、時間の経過と共に、笑顔が見られ、楽しい1日になりました。

芦屋市からの受託事業「芦屋市生活支援体制整備事業」では、生活支援コーディネーターの役割を理解していただくべく、市内の各生活支援コーディネーターが集まり作成したチラシを、地域会合等（精道地区、宮川地区、打出浜地区小地域ブロック連絡会等）で配布し、啓蒙活動に取り組みました。

また、阪神地区合同の「阪神7市1町生活支援コーディネーター情報交換会」や兵庫県主催の「地域とともに生活支援全県フォーラム」に参加したり、他市の取り組み内容について情報収集にも努めました。市内各圏域の生活支援コーディネーターが、定期的集まり地域での取り組みなどについて議論しつつ、まだまだ手探りの状況ですが、今後も一歩一歩前に進めてまいります。

「オレンジカフェ・フォーラムおしゃべり会」は、ボランティアの方々のご協力を得て、認知症のある当事者の方、地域の方、ケアハウスご入居者ならびに地域包括支援センターや芦屋市職員の方々にご参加頂き、一昨年11月の初開催以降17回を重ねています。参加されている若年性認知症の方、支えるご家族も一時楽しく過ごされると共に、地域包括支援センターや芦屋市職員に悩みを相談したり、介護保険サービスについて確認したり、つながりができました。8月には、地域の子供たちの夏休みを利用し、浜町子供会にボランティアをお願いし、三世代交流会「かき氷大会」を開催しました。子供たち10名のボランティアのもと、総勢61名でかき氷を作り、楽しい交流会にすることができました。

「オレンジカフェ・フォーラムおしゃべり会」は、今後も皆さまのご協力を得ながら、「つながり」を大切に取り組みを充実させていきたいと考えております

2月には、第4回ボランティア懇談会を開催し、ボランティア16名（9団体）の方々から日頃の活動時のご意見を多数いただきました（例：入浴後の髪乾燥の実施方法の統一や習字道具の清掃や備品の購入等）ので、法人大で共有し、順次対応を進めております。

リングプル回収の取り組みも、近隣の郵便局や銀行、大学、福祉専門学校等にも回収ボックスを設置して、ご協力いただいています。当所の取り組みを地域の方々やご家族に取り組みをご理解いただき、たくさんの方々からご支援をいただきつつ、日々、目標に近づいております。

（H29年3月末：2リットルペットボトル 860本）

IV 【時代の変化に対応でき、将来的に安定した経営ができる基盤の確立】

経営基盤

各施設・事業所の管理職が毎週1回情報連絡会議を開催し、法人全体の運営や各事業における課題等を共有し、スピーディーに対応策を検討しています。また、各施設・事業所の運営状況についても、利用率や介護度状況等、運営にあたっての情報の共有に努め、安定した運営につながるよう取り組んでいます。

一方、収支については、ショートステイやケアハウスの高い利用率のより、事業活動収入計が昨年比約7百万円の増になっており、一方で昨年実施しましたケアハウス居室エアコンの購入、老人保健施設教養娯楽費の返還金等の支出減により、収支差額は、昨年より7百万円増の約42百万円となりました。

エルホーム芦屋の運営も丸17年を経過し、建物設備の老朽化も進んでいます。平成29年度については、空調設備機器の改修や消防設備等約70百万円の設備更新を計画し、約25百万の修繕工事を計画しております。

空調設備機器の改修については、当初、平成28年度から開始（9ヵ年計画）する予定でありましたが、空調機の種類や価格および設置後のメンテナンス等、再検討の結果、計画を見直し、平成29年度から4ヵ年計画で実施することに

いたしました。

今後も再度綿密に行程を組みつつ、無駄のない効率的な更新等を進めると共に、優先順位をしっかりとつけてリニューアルを図ってまいります。

また、改めて自然災害時のリスク等に対して、事業継続計画を整備し、万全の体制を整えてまいります。

社会福祉法等の一部を改正する法律が施行され、地域社会への貢献といった福祉法人の責務の明確化、組織経営のガバナンス強化や事業運営の透明性（財務規律の強化、財務諸表の公表等）の向上を図ることとなり、より信頼のおける法人を目指し、しっかり対応してまいります。

以 上